令和７年度
劇場・音楽堂等機能強化推進事業
成果報告書
①（基礎データ・公演事業の実績値等）

地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業	
団体名	公益財団法人愛知県文化振興事業団
施設名	愛知県芸術劇場
内定額	27,073　（千円）

（1）令和7年度　助成対象事業一覧

※実績報告書様式13－2(2)事業内容 から転記してください。
　複数の事業類型（公演・人材・普及）が助成対象となっている場合は、それぞれすべて転記してください。

事業番号	事　業　名	実施日程	実施会場
公-01	ダンス作品兼演劇作品 『ダンスの審査員のダンス』	2025年9月19日（金）、20日（土）、21日（日）	愛知県芸術劇場小ホール
公-02	第22回AAF戯曲賞受賞記念公演『とりで』	2025年12月19日(金）、20日（土）、21日（日）	愛知県芸術劇場小ホール
公-03	アクラム・カーン『ジャングル・ブック』	2025年6月29日（日）	愛知県芸術劇場大ホール
公-04	NDT2（ネザーランド・ダンス・シアター2） 愛知公演	2025年11月24日(月・祝）	愛知県芸術劇場大ホール
公-05	オルガン・レクチャーコンサート	2025年8月27日(水）	愛知県芸術劇場コンサートホール
公-06	ピアノ・ツィルクス～5台ピアノの世界～in 愛知県芸術劇場コンサートホール	2026年3月7日(土）	愛知県芸術劇場コンサートホール
人-01	オルガニスト養成事業	通年	愛知県芸術劇場コンサートホール
人-02	ダンサー養成事業	①2025年7月13日(日） ②2026年3月20日（金）	愛知県芸術劇場大リハーサル室
人-03	第23回AAF戯曲賞募集・選考	2025年8月～2026年3月	オンライン、幸田町立図書館
人-04	【Aichi発掘・発信プロジェクト】 公募プログラム公演『AICHI NEXT』:Perfoming Arts Project	2025年8月15日、16日、9月6日、7日	愛知県芸術劇場小ホール、愛知芸術文化センターフォーラム
人-05	【舞台芸術人材養成ラボ】インターンシップ＆舞台芸術に関わる職業紹介事業	①通年 ②2025年8月19日、20日、21日 ③2026年3月14日（土）	愛知県芸術劇場、愛知芸術文化センターアートスペース等
人-06	【舞台芸術人材養成ラボ】劇場・舞台芸術専門人材スキルアップ＆交流事業	①2026年1月14日15日16日 ②2025年8月～2026年3月	愛知芸術文化センターアートスペース等
普-01	愛知県芸術劇場オープンハウス	2025年4月29日(火）	愛知県芸術劇場 大・小ホール
普-02	THEオルガンNIGHT＆DAY2025	2025年5月2日(金）、3日（土・祝）	愛知県芸術劇場 コンサートホール
普-03	子どもと楽しむ参加型体験プログラム げきじょうたんけんツアー／ダンスワークショップ「赤ちゃんと踊ろう」	①げきじょうたんけんツアー：2025年8月21日(木） ②赤ちゃんと踊ろう：2025年5月25日（日）、26日	①愛知県芸術劇場 大ホール ②愛知県芸術劇場 大リハーサル室
普-04	栄北まちなか展開事業	2025年11月15日（土）、2025年11月28日（金）・29日（土）・30日（日）	愛知芸術文化センターオープンスペース等
普-05	愛知県芸術劇場 舞台芸術鑑賞教室2025 絵本×朗読×パイプオルガン「終わらない夜」	2025年11月12日（水）	愛知県芸術劇場 コンサートホール
普-06	多文化共生事業・インクルーシブプログラム	通年	愛知県芸術劇場 大リハーサル室等
普-07	劇場＆舞台芸術　普及プログラム	通年	愛知県芸術劇場 中リハーサル室等
普-08	愛知県芸術劇場＆県内ツアー公演『CLUB ORIGAMI』	2025年7月23日(水）～8月7日（木）	愛知県芸術劇場 小ホール等

（2）〔基礎データ〕

※ 交付申請書から転記してください。令和7年度について見込み等の暫定値だったものは、確定した数値を記入してください。

※ 実施中止分を含まない実績値を記入してください。

【1. 事業本数】

項　　目			令和5年度	令和6年度	令和7年度
年間事業本数（※1）	主催事業		27	25	30
		公演事業	14	11	14
		（内、本助成対象事業本数）	13	8	6
		人材養成事業	5	4	5
		（内、本助成対象事業本数）	5	4	5
		普及啓発事業	8	10	9
		（内、本助成対象事業本数）	0	10	8
		共生社会事業			
		（内、本助成対象事業本数）			
		その他　内容：　新作クリエイション・劇場ダンスアーティストプロモーション事業			2

※1　事業の延べ実施回数ではなく、事業本数を記入してください。

【2. 貸館日数】

項　　目		令和5年度	令和6年度	令和7年度
貸館日数	ホールごとの貸館日数	977	1,274	1,274
	ホール名：大ホール　座席数：2480	182	230	253
	ホール名：コンサートホール　座席数：1800	190	268	248
	ホール名：小ホール　座席数：標準282席（最大330席）	165	231	237
	ホール名：大リハーサル室　座席数：固定席無し	194	218	240
	ホール名：中リハーサル室　座席数：固定席無し	246	327	296

【3. 施設利用者数（事業利用者数）・開館日数・利用可能日数・利用日数・利用率】

項　　目			令和5年度	令和6年度	令和7年度
施設利用者数（※2）	主催事業入場者・参加者数		19,158	22,157	29,456
		公演事業	13,585	14,100	18,779
		人材養成事業	1,386	1,368	2,479
		普及啓発事業	4,187	6,689	7,775
		共生社会事業			
		その他　内容：新作クリエイション発表・劇場ダンスアーティストプロモーション事業			423
	貸館事業入場者・参加者数		386,274	576,812	595,977
	その他　内容：				
	計		405,432	598,969	625,433
開館日数			254	332	334
施設の利用可能日数　（＝365－（保守点検日数+休館日数））			254	334	332
施設の利用日数			252	333	331
施設の利用率(%)　（＝利用日数/利用可能日数）			99.2%	99.7%	99.7%

備考	

※2　実演芸術の公演等を鑑賞する者、ワークショップ等に参加する者、その他の劇場・音楽堂等の事業を利用する者の延べ人数を記入してください。
劇場・音楽堂等のスタッフや、併設施設（美術館、図書館等）のみへの入場者、事業関係者（出演者、指導者、スタッフ等）は除きます。
レジデントカンパニー・アーティストの稽古利用等の場合は「その他」に記入してください。

【4. 公演事業データ】

※ 交付申請書から転記してください。令和7年度について見込み等の暫定値だったものは、確定した数値を記入してください。

※ 実施中止分を含まない実績値を記入してください。

事業種別		事業本数	公演回数	入場者・参加者数	事業本数内訳						
					演劇	音楽	舞踊	伝統芸能	演芸	総合（※3）	その他
令和5年度	主催公演（※1）	15	36	14,002	2	5	8	0	0	0	0
	共催・提携公演（※2）	2	22	7,756	0	0	1	0	0	0	1
	貸館公演	335	514	383,674	※事業毎統計無し						335
	計	352	572	405,432							
令和6年度	主催公演（※1）	8	14	6,657	2	2	4				
	共催・提携公演（※2）	3	12	7,443	1	0	0	0	0	0	2
	貸館公演	667	829	584,869	※事業毎統計無し						667
	計	678	855	598,969							
令和7年度	主催公演（※1）	14	34	18,779	1	4	4				5
	共催・提携公演（※2）	0	0	0							
	貸館公演	474	831	668,479	※事業毎統計無し						474
	計	488	865	687,258							

※1 名義主催は除きます。
※2 名義共催を含みます。
※3 「総合」には、フェスティバル等における事業数を記入してください。

（3）各公演事業における実績値 及び 評価項目「創造性・企画性」に関する評価指標・目標（値）・実績（値）

- 公演事業について、助成対象事業ごとに目標（値）と実績（値）を記入してください。
- 入場者数・入場者率（目標値）は**「交付申請書」**から転記してください。
- 有料入場者数・有料入場者率（目標値）および評価指標・目標（値）は**「評価補助シート」**から転記してください。

※有料入場者率（%）の計算方法＝**有料入場者数÷公演の設定席数（実績値）合計×100**

事業番号	事業名		入場者数	入場者率	評価指標	目標（値）	実績（値）
公-01	ダンス作品兼演劇作品 『ダンスの審査員のダンス』	目標値	360	75.0%	公演内容の満足度	80%以上	90%
		実績値	379	76.1%	批評やレビュー本数、専門誌掲載数	3～5	4
公-02	第22回AAF戯曲賞受賞記念公演『とりで』	目標値	394	75.0%	公演内容の満足度	80%以上	67.60%
		実績値	325	92.6%	専門的人材の育成数、熟練度	劇場職員や、東海圏アーティスト・スタッフが5名以上参画し育成・熟練を図る。	東海圏出身：演出家1名、俳優1名
公-03	アクラム・カーン『ジャングル・ブック』	目標値	1,070	75.0%	公演内容の満足度	80%以上	69%
		実績値	1,001	86.0%			
公-04	NDT2（ネザーランド・ダンス・シアター2） 愛知公演	目標値	1,022	75.0%	公演内容の満足度	80%以上	99%
		実績値	1,244	93.9%	批評やレビューの内容		DANCE MAGAZIN2026年2月号「ダンサー・ベスト展発表！」や、2025年オン★ステージ舞踊5に選ばれた。
公-05	オルガン・レクチャーコンサート	目標値	1,082	75.0%	公演内容の満足度	80%以上	76%
		実績値	733	47.0%			
公-06	ピアノ・ツィルクス～5台ピアノの世界～in 愛知県芸術劇場コンサートホール	目標値	1,121	75.0%	公演内容の満足度	80%以上	76%
		実績値	1,168	87.6%			

令和７年度

劇場・音楽堂等機能強化推進事業

成果報告書

②（評価）

地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業	
団体名	公益財団法人愛知県文化振興事業団
施設名	愛知県芸術劇場
内定額	27,073　（千円）

（１）各公演事業の自己評価

「成果報告書①（基礎データ・公演事業の実績値等）」に記載の入場者率・評価指標・実績（値）等に言及しつつ、自己評価と自己評定（※１）を記入してください。

（※１）…S～D で記入してください。

※太枠内に記入してください

事業番号	事業名	自己評価
公-01	ダンス作品兼演劇作品『ダンスの審査員のダンス』	・入場率は約 76.1%、公演内容満足度 90%で目標値を達成できた。 ・来場者アンケートでは「ダンスと演劇の融合を通して所有について哲学的思考が促されておもしろかった」「劇場制作だから出来る実験的な試みには、応援したい気持ちが大きいです」「劇場をなるべく明るく、入場口の扉を開けっ放しにするなどの工夫が、客席と舞台との境界を越えるのに効果的で、作品のテーマ的に、そちらの術中にハマったと思いました。面白かったです」「演劇とはなんなのか？ダンスとはなんなのか？を音声や動きを通して常に考えさせられる作品で、哲学書を読んでいるようでした。」など、好意的な意見が多数寄せられた。 ・また、自社媒体（AAC タイム）で創作の過程を取材したことで、コンセプトや経過を的確に把握し、それらを反映した発信業務を進めることができた。その結果、作品に関する批評・レビューが新聞等において計 4 件掲載され、目標値を達成した。(「ナゴヤ劇場ジャーナル」2025 年 11 月 5 日、「danceart special」2025 vol. 秋、「ダンスマガジン」1 月号、「artscape」 2026 年 2 月 9 日、)
公-02	第 22 回 AAF 戯曲賞受賞記念公演『とりで』	・入場率は約 92.5%で目標値を達成できたが、来場者満足度については 67.6%にとどまった。来場者アンケートには「俳優さんの声が小さすぎて聞こえませんでした」という声が複数寄せられ、声量を抑えた演技、家族という日常生活の会話をそのまま舞台上に乗せる演出家の意図を、観客に的確に伝える点で課題となった。一方、「初めて、芸術が溢れ出ている演劇を見ました」「演出家さんの違いでこれ程も、得られるものが違うのだと感動し、一緒に観劇した母と帰ってからたくさんの感想と、自分なりの 解釈を共有しました」「これは何を表現していたのだろう？あの演出は私たちにどのような効果をもたらしたのだろう？と一歩踏み込んで考え、他の人はどう感じたか、どう考えたかということも聞くことができたあの時間は、確実に私の人生を豊かにしてくれるものでした」など、新たな視点を提示するとともに、想像力を喚起させる場を創出できた。 ・受賞作品を２名の演出家による２作品として創作、連続上演という新しい形式で上演することとし、演出家２名のうち１名は名古屋を拠点に活動する気鋭の演出家澄井葵を起用した。出演者の一人は愛知県内で活動する俳優であった。また制作者など東海圏を拠点に活動するスタッフや職員が参画し、地域の専門人材の育成・熟練度の目標も達成した。加えて九州、東京などで活動するスタッフ、俳優も加わり、地域を越えた活発な人的交流が生まれた。 ・来場者アンケートには、「AAF は以前から何度か見ていたり関わったりした経緯もあるだけに、応援をしていきたいと思っています」などの声が寄せられている。

公-03	アクラム・カーン『ジャングル・ブック』	・入場率は約 86%で目標値を達成できたが、来場者満足度については 69%にとどまり、課題が残る結果となった。要因としては、来場者アンケートにおいて、「字幕の色が薄く、かつ表示時間が短く読めません」といった意見が複数みられ、日本語字幕の役割が十分に機能せず、かえってストレスになったことが考えられる。部分的に英語のナレーションがある本作は、日本語字幕がなくとも十分に楽しめる作品ととらえていた。ダンス作品での日本語字幕の在り方について再考するとともに、字幕の視認性や「字幕が見切れる可能性があります」と注意喚起するなどにより、今後の字幕使用時の改善につなげ、満足度向上を図る。 ・一方で、「総合芸術の醍醐味を味わえました。大人から子供まで楽しむことができ、メッセージも素晴らしい！」「素晴らしい総合芸術。生きているようなアニメーションとダンスの融合・競演、ハイレベルなダンサーたちとその卓越した身体表現、練り上げられた音楽、全てが素晴らしかったです」などの好意的な感想も多く寄せられており、作品の魅力について一定の評価が得られたと考えられる。
公-04	NDT２（ネザーランド・ダンス・シアター２） 愛知公演	・入場率 93.9%、満足度は 99%と、いずれも目標を大きく上回ることができた。アンケートでも「素晴らしい作品に出会うことができました。ダンサーの皆さんのパフォーマンスはどのカンパニーにもない躍動感と美しさがありました。名古屋で観られたことを感謝します」など、好意的な意見が多数寄せられた。また、「形式も振付もまったく異なる 3 作品、いずれも惹きつけられました」「キュレーションが素晴らしいです」など、プログラム構成力についても高い評価を得た。 ・さらに「若いダンサーの洗練された動き。群のナチュラルな動き移動など、高い位置から観ていたので良くわかった」「重力がないのかと思わせられるようなフィジカルの強さと素晴らしいポテンシャルにあふれたダンサーを見ることができて、よい時間だった」といった感想が寄せられ、国際的に高い評価を受ける若手ダンサーNDT2 の公演は、観客に刺激とインスピレーションを与える公演となった。これらのことから、企画性の高い事業を実施できたといえる。
公-05	オルガン・レクチャーコンサート	・入場率 47%だったが、有料入場者数としては 677 人で目標の 650 人を上回った。また、満足度は 76%で、目標値である 80%には届かなかったものの比較的高い結果となった。 ・来場者アンケートでも好意的な意見が多く、全体として一定の評価が得られたと考えられる。具体的には「他の演奏者と違って、できるだけたくさんの種類の音色を聞かせようとしてくれているのが伝わり、毎回ますますオルガンの魅力に引き込まれていきます。都築さんのコンサートにはいつも感銘を受けます」「都築さんの解説が良かった」など、劇場オルガニストとしての専門性を活かし、当劇場のパイプオルガンの魅力を最大限に引き出したコンサートを提供することができた。
公-06	ピアノ・ツィルクス～5 台ピアノの世界～in 愛知県芸術劇場コンサートホール	・入場率 87.5%は目標を達成した。満足度 76%で目標値には届かなかったものの、アンケートでは、「5 台のピアノに圧倒されました」「久々に心を揺さぶられるコンサートでした。 5 台ピアノのオーケストレーションが素晴らしかったです。次も必ずいきたいです」など、希少性が高く質の高いコンサートを提供することができた。 ・公演の 3 週間前に、「ピアニスト中川賢一氏によるレクチャー」（普-07)を実施した。コンサート終了後のアンケートに「事前レクチャー講座に参加していたので、見どころなど教えて頂き、より深く鑑賞出来た」「今回の公演の前にピアニストによるセミナーもあって、お話も楽しく今日の曲が身近に感じました」という感想が複数寄せられた。この結果、本公演関連企画が観客の作品理解を深め、コンサートの満足度向上につなげることができた。 ・また、「こんないい演奏が、めちゃくちゃいい席で鑑賞できたのは『劇場と子ども 7 万人プロジェクト』のおかげです」との声も寄せられ、若年層に確実にも良質な公演を届けることができた。

※行が足りない場合は適宜追加してください。

（2）自己評価

評価項目①：創造性・企画性

（※1）…S～D で記入してください。

評価の観点	・（企画力）地域の状況と芸術性とのバランスが取れた、特色ある事業計画である。 ・（制作力）優れたアーティストやスタッフ等が才能や技能を発揮し、高い水準の作品制作や各種事業が行われている。 ・（発信力・影響力）圏域内外の実演芸術を牽引する成果が期待できる。 ・（レジデントカンパニー・アーティスト）当該劇場を創造拠点又は準拠点とする実演芸術団体やアーティストを擁する。
・自由設定の観点（任意）（※2）	

（※2）…R7 年度評価補助シートにて設定している場合は転記すること。

	評価指標（※3）	目標（値）（※4）	実績（値）
公演事業	①公演事業に対する専門誌・専門家・批評家等によるレビュー件数 ②①での高評価の内容 ③当館で創作・プロデュースした作品の年間上演回数（再演含む） ④公演事業（助成対象事業）についての年間メディア掲載総数	①合計 8 件以上 ②　- ③12 回以上 ④90 件	①ダンスの審査員のダンス　5 件 ジャングル・ブック 9 件 （うち、埼玉公演 7 件） とりで　1 件 NDT2　1 件 ②「自己評価」に記載 ③ダンスの審査員　12 回 （ツアー含む） とりで　3 回 ④R7 年度公演事業掲載総数（助成対象事業のみ）：172 件
人材養成事業	①受講者アンケートでの役立度の平均値 ②養成事業受講者アンケートでのグッドプラクティスやエピソード	①80% ②-	①鑑賞レビュー講座、劇場職員セミナーにおいて目標値を達成することができた。学生インターン 2 年目では、80%が今後も舞台芸術に関わっていきたい、という結果だった。 ②以下に記載
普及啓発事業	①普及啓発事業の公演事業鑑賞者アンケートでの公演満足度の平均値 ②普及啓発事業の鑑賞者・参加者アンケートでのグッドプラクティスやエピソード ③普及啓発事業に対する専門誌・専門家・批評家等による評価件数 ④①での高評価の内容	①80% ②- ③1 件 ④-	①平均 94.5% ②「自己評価」に記載 ③1 件 ④「自己評価」に記載
共生社会事業			

（※3）・（※4）…R7 年度評価補助シートから転記すること。

・評価指標と目標（値）及びその達成度に言及しながら、事業類型ごとに太枠内に自己評価を記入してください。

公演事業	
自己評価	評価指標①及び③④については、目標値を上回った。以下、各事業ごとに②高評価の要因を挙げる。 ・公-01：当劇場芸術監督の唐津絵理発案・企画のもと始動し、当劇場と東京芸術祭の共同製作として創作した。高知、長野(上田)、福岡(北九州)の公立文化施設の連携によりツアー公演を行い、広域的なネットワークの構築を図ることができた。また、本公演は「静かにするのが苦手・じっとしているのが難しい方にも楽しんでいただけるような」リラックスした雰囲気の中で上演され、舞台上で生まれる熱量が観客の反応と共鳴する、双方向性の高い上演となった。当館含め合計 12 回の公演を通じ、"各地との対話"を重ねてブラッシュアップされ、「観客とともに育まれる生きた作品」であることを体現するものとなった。ダンス、演劇、音楽など多ジャンルのファンから高い注目を集め、県外からも多くの鑑賞者が来場した。 【レビュー・批評】「理念だけが空気を占領し、制度の抽象がたちのぼるたびに、身体は逆説的に鮮明になっていくようで興味深かった」（danceart_special_2025_vol.10_秋、亀田恵子） ・公-02：１つの戯曲を、２名の演出家がそれぞれ創作して２作品を連続上演する、AAF 戯曲賞受賞記念公演としては初めての形式で上演した。同一脚本を異なる視点、演出で上演することで、作品解釈の多様性を提示するとともに、観客に新たな鑑賞体験を提供し、舞台鑑賞の在り方について問題提起を行うことができた。終演後にゲストと演出家を交えたトークを行い、観客と創作者の意見交換を通して作品理解をより深める機会を創出した。 【レビュー・批評】「あらためて戯曲を思う。村社祐太朗のそれは、ありふれた日常と言っていいだろうある短な時間のささやかな出来事を、明瞭な言葉でもって描きながら、同時に台詞ひとつひとつ、動作ひとつひとつに奇妙な厚みや奥行きを備えさせていた」「精緻な設えの目指す先が、強固で単一的で完成された、それゆえ私にその全体を把握可能であると思わせるような造形物ではなく、ある特殊にゆるい遊びの余地、バッファ、その把握しきれなさの発明でこそあること。ひとつの戯曲をふたつの演出で連続上演するという今回の形式は、戯曲一般が持つ上演の多様性を示す以上に、『とりで』という戯曲固有の質を十全に展開する方法として、的確であった」（AAC Journal vol.128　掲載予定、山本浩貴（いぬのせなか座）） ・公-03：アニメーションを多用した本作品は、ダンス界のみにとどまらず、メディアアート分野をはじめ、複数の媒体、雑誌で公演情報が掲載された。これによりジャンルの垣根を超えた作品鑑賞の機会を提供することができた。 【レビュー・批評】「動物と人間の共存、多様性に寄せる柔軟な包括力など、振付のすみずみにまで真摯な願いを込めた作品だった」（ダンスマガジン 2025 年 10 月号、國吉和子） ・公-04：本上演プログラムは、当劇場芸術監督の唐津絵理と NDT 芸術監督エミリー・モルナーの信頼関係に基づき今回の日本ツアーに合わせて特別に編成され、欧州でも見ることの出来ない構成で実施した。芸術性と日本の観客の関心をバランスよく組み合わせた 3 作品によるトリプルビルで、観客にもその意図がよく伝わり、その結果来場者アンケートでも「形式も振付もまったく異なる 3 作品、いずれも惹きつけられました」「キュレーションが素晴らしいです」など高評価を得られた。また、本公演は『DANCE MAGAZIN』(2026 年 2 月号)「ダンサー・ベスト展発表！」や、『オン★ステージ新聞』(2026 年 1 月 1 日発行)「2025 年オン★ステージ舞踊 5 」に選ばれるなど、高い水準の公演鑑賞機会を提供できた。 ・公-05：チケット販売においては、夜公演で、当日券を求めるお客さまの行列ができるほど好評であった。会社員や公務員が多く来場するなど、平日の夜公演としたことで、名古屋中心部のオフィスエリアという立地の地域的環境を活かした社会人ニーズの創出に効果的に作用できた。 ・公-06：ヤマハが製造する最高級のフルコンサートグランドピアノ CFX の当館への導入に合わせて本公演を自社媒体「AAC journal」にて紹介した。その結果、「『【特集】ヤマハ最高峰のピアノ「CFX」が愛知県芸術劇場コンサートホールにやってくる』(https://aactime.aichi.jp/news/5975/) を読みました．数多くのピアノを組み合わせたコンサートに期待できそうです』」などの回答が来場者アンケートでも得られた。当劇場のピアノのスペックを 5 人のピアニストという特色ある公演で紹介する好機会を創出できた。また、終演後に行った、ステージ上で 5 台のピアノとともに撮影する企画、「5 台ピアノ撮影会」は、申し込み開始して間もなく定員に達するほど好評であった。

	【レビュー・批評】「舞台上に 5 台のピアノが並んだ姿を見るのは初めてだったが、なかなか壮観な光景である。（中略）既存の曲の演奏には不満を覚えたが、5 台のピアノのために作曲された 2 曲は、音楽的にも視覚的にも楽しめた。」（ナゴヤ劇場ジャーナル 2026 年 4 月号　上野）

人材養成事業	
自己評価	以下、各事業ごとに②グッドプラクティスやエピソードを挙げる。 人-01：上半期は 6 名（新規：2 名、継続 4 名）、下半期は 9 名（新規：5 名、継続：4 名）の受講生が得られ、中学生から高校生、大学生、社会人と幅広く若い世代を対象に実施することができた。修了試演会の来場者アンケートに「数年前にこの修了試演会を知ってから、毎回楽しみにしています」との声が寄せられ、若いアーティストの育成と継続的なレッスンの成果発表の場として、本事業が観客からも高く評価されていることを示していると考える。 人-02：名古屋洋舞家協議会と連携して、ワークショップを実施した結果、地域の幅広い層へ効果的な働きかをすることができ、合計 44 名を集めて実施することが出来た。 人-03：応募者アンケートでは、応募者 256 名中、155 件の回答を得た。そのうち初めての応募者が 123 件を占め、新しい才能の発掘をめざしリニューアルした本事業への期待がうかがえた。 人-04：当初は Advance Stage および Challenge Stage の 2 区分だったが、選考過程において新たに Challenge Stage＋を設けた。これにより愛知県在住のアーティストを採用し、上演に当たっては金額面および劇場スタッフによる技術・制作面での厚いサポートを行った。参加者へのアンケート結果では、事業内容、劇場の支援、舞台経験において高評価であった。地元アーティストへ実験的で新たな表現に挑戦する機会を創出し、創作活動の活性化に寄与することができた。また、中日新聞朝刊（2025 年 8 月 31 日(日)）では、地元名古屋芸術大学学生のユニット「ぬくみ」による演劇が取り上げられた。その中で、脚本・演出の川セマリンさんは取材に対し「ここでやれるうれしさがあふれた」と語られていた。 人-05：受講者アンケートで、「2 年間のインターンで関わった公演を通して、自分が地域性のあるものに携わりたいと思うようになり、関連した事業のある職場に就職できた」「現役で劇場や舞台に関わる方々とお話する機会が多く、いろいろな相談ができた」といった声が寄せられた。現場の声を直接聞く機会を創出したことにより、専門性が身に付き、一定の成果につながったと考える。 人-06：全 16 講座において、総合的にも満足度、役立ち度、理解度すべてにおいて 95%を超える高評価であった。これは、2015 年（当初名称：舞台芸術人材ラボ）から継続的な取組みの成果であると考えられる。

普及啓発事業	
自己評価	以下、各事業ごとに②グッドプラクティスやエピソードを挙げる。 普-01：来場者アンケートでは、「ただ見学するだけかと思ったら、ダンサーさん達と一緒に踊れるし、どえら楽しかった」などの声が寄せられた。劇場で鑑賞するだけでなく、来場者が自ら主体的にイベントに参加する機会を提供し、劇場ダンスアーティストとのコラボレーションを通じて、劇場を身近に感じてもらう体験型の事業としての成果を出せた。 普-02：「THE オルガン NIGHT」で初めてダンスとの共演をプログラムに取り入れた。来場者アンケートでは「ダンスとの共演で今までと異なったオルガンの楽しみ方を体験することができました」「初めてのパイプオルガンの音色に、圧倒されました。ダンスがなければ聞きに来ることはありませんでした。」などの声が寄せられ、これまでオルガンのコンサートに来たことがない、新しい客層を呼び込むことができた。他にも好意的な感想が多数あり、オルガニスト山口綾規のパイプオルガンの響きと、劇場ダンスアーティストの島地保武及び酒井はなの身体表現が交差する特別な舞台を通じて、新たな魅力を創出することで、従来とは異なる客層の来場につなげることができた。 普-04：「POP UP OPERA」には、藤原歌劇団所属のオペラ歌手が街なかのオープンスペースで特別ライブ

	としてアリアの一節を披露し、公演の見どころ、物語の背景や聴きどころについても解説を行い 197 名の観客が集まった。これにより公演への期待も高まるとともに、近隣地域における文化的関心を喚起し、芸術文化と連動したまちづくりに寄与することができた。「国際芸術祭あいち 2025」会期中に開催した「0(ゼロ)AR」では、参加者アンケートから「東京から芸術祭に来ました。ぴったりのタイミングで体験できてよかったです。楽しかった！」「こういうイベントをどんどんやってくだい」など、オープンスペースを活用した取り組みに対して好意的な反応が得られた。 普-05：『終わらない夜』は、愛知県内の児童・学生を対象とした鑑賞プログラムとして 2023 年から創作を開始し、24 年に学校招待公演として初演し、25 年はブラッシュアップを重ねて学校招待公演を実施した。25 年は、一般校の参加に留まらず、特別支援学校、盲学校、聾学校、インターナショナルスクールなど、多様な児童･生徒の参加がみられた。参加児童・生徒からは「とても綺麗な音色で聞いていてとても楽しかったです。特に音色の響きや曲と曲とのつながりがきれいでとてもよかったです。」、引率者の教員からは「講演前は興味なさそうな生徒たちも、実際にパイプオルガンの音を聞いた後は表情が輝き、いきいきとして見えました。実際「生音は違う」「迫力ある音だった」など、感想を言い合うなど、こちらとしても驚く反応を示しました。やはり百聞は一見にしかず、で参加させていただき、本当によかったです。ありがとうございました。」など高い評価が得られた。 普-07：舞台芸術の楽しみ方を伝えるためのプログラムとして、『ジャングル・ブック』(公-03)アーティストによる県内の学校等へのアウトリーチを行った。生徒たちの内容満足度はとても高く、「まだ見ぬ新しい発見もあった」「いつもとは違う目線でダンスにふれることができました」など、表現することへの関心を高めるなど、創造性の育成に資する効果がうかがえた。また、『ピアノ･ツィルクス～5 台ピアノの世界～ in 愛知県芸術劇場コンサートホール』(公-05)の公演前には「ピアニストによるレクチャー」など開催した。公演アンケートで「事前学習会にも参加して、今日のコンサートがとても楽しみだった。期待通り、いや、それ以上のコンサートで、とても感動した」との声がよせられた。これにより、事前レクチャーは、鑑賞前の理解促進および作品への関心喚起につながったと考えられる。 普- 08：上演の後半からは、パフォーマーが子どもも大人も問わず、鑑賞者を誘い、ともにアクティングエリアで「オリガミ」を楽しむ参加型の演出であったため、来場者アンケートでは、「子供も喜んで紙で創作、紙を破くことを体験できとても良かったです」「折り紙の自由なパフォーマンスにワクワクしました」など、感受性や創造性を育む情操教育の一助となった点は大きな成果である。

共生社会事業	
自己評価	

（2）自己評価

（※1）…S～D で記入すること。

評価項目②：国際性（任意）

評価の観点	・(国際プレゼンスの向上) 海外の劇場やフェスティバル、実演芸術団体等と連携し、国際共同制作や海外作品の招聘等に取り組んでいる。 ・(国際交流) アーティストや文化芸術関係者の招聘等、人的交流や情報交換が行われている。 ・(新たな創客への取組) 在住外国人や訪日外国人に向けて文化芸術体験の機会を提供する等、グローバルな視座で創客に取り組んでいる。	
	・自由設定の観点（任意）（※2）	

（※2）…R 7 年度評価補助シートにて設定している場合は転記すること。

評価指標（※3）	目標（値）（※4）	実績（値）
①国外に拠点を置くアーティスト等を招聘しての人材養成事業及び普及啓発事業の実施回数及びその事業の延べ受講者数 ②海外招聘アーティストによる公演数	①2 回以上及び 20 人以上 ②6 公演	①ジャングル・ブック　3 回、71 人 CLUB ORIGAMI　1 回、24 人 ②ジャングル・ブック　1 回 CLUB ORIGAMI　4 回 NDT 2　1 回

（※3）・（※4）…R 7 年度評価補助シートから転記すること。

・評価指標と目標（値）及びその達成度に言及しながら、太枠内に自己評価を記入してください。

自己評価	評価指標①としては、以下の通りである。 ・普-07：公-03『ジャングル・ブック』に関連し、イギリスを拠点とし各国ツアー公演をしているアクラム・カンパニーの出演ダンサーによるワークショップ（学校アウトリーチを含む）を開催し、生徒、一般の方からダンサーまで幅広い層が参加したことで、活発な人的交流が生まれた。 ・普-08『CLUB ORIGAMI』公演はイギリス拠点のカンパニーによる大人も楽しめる参加型公演であり、家族や他者との触れ合いを通して、日本の文化を新たな視点から見つめ直す機会となった。ワークショップも実施した。 なお、公-04 では、公演とあわせて NDT 芸術監督エミリー・モルナーと愛知県芸術劇場芸術監督唐津絵理によるプレトーク、及びアフタートークを実施することで、観客の作品理解を深めるとともに、質疑応答を通じて、創り手と観客との国際的な双方向コミュニケーションを図り、最先端のコンテンポラリーダンスへの理解を一層広げることができた。 評価指標②に関しては、以下の通りである。 ・公-03：来場者アンケートの質問「今後も他国の人々や文化に関心が高まるような海外のカンパニーの公演を鑑賞したいと思いますか」において、97%の人が支持する回答を得られた。 ・海外招聘公演が東京・首都圏に集中しがちな中、公-03、04 のように愛知（名古屋）を会場として公演を実施することで、東海・中部地域において国際水準のコンテンポラリーダンスを鑑賞できる拠点としての役割を果たした。来場者アンケートには「初めての NDT2 でしたが期待以上で最初の演目から盛り上がりました。

（２）自己評価

（※１）…S～D で記入すること。

評価項目③：地域文化拠点機能

評価の観点	・(文化拠点) 地域の特性やニーズを踏まえ、地域の文化資源を活用するなど、地域の文化拠点として事業が組み立てられている。 ・(地域連携) 地域の関係機関と連携・協力し、地域コミュニティの創生や社会課題の解決等に取り組んでいる。 ・(児童生徒への機会提供) 次代を担う子ども達を対象とした鑑賞や体験事業が行われている。	
	・ホール利用サービス（貸館事業）の向上（任意）（※２）	技術面・安全面・運営面でのサポートなど、公演当日まできめ細やかなサービスを行う。
	・自由設定の観点（任意）（※３）	

（※２）・（※３）…R７年度評価補助シートにて設定している場合は転記すること。

評価指標（※４）	目標（値）（※５）	実績（値）
①劇場の平均利用率 ②利用者満足度調査 ③7 万人プロジェクト参加者数 ④以下のファミリー向け事業参加者の新規来場者率 ・愛知県芸術劇場オープンハウス（普及-01） ・THE オルガン NIGHT＆DAY2025（普及-02） ・げきじょうたんけんツアー／ダンスワークショップ「赤ちゃんと踊ろう」（普及-03） ⑤自主事業における県内市町村や地域団体との連携プログラム数 ⑥舞台芸術人材養成事業への参加者数 ⑦職員の派遣	①80%以上を維持する ②5 以上（6 段階評価）を維持する ③1 万人以上 ④30%以上を維持する ⑤8 プログラム以上 ⑥800 人以上を維持する ⑦自治体や他団体等にて文化振興や劇場運営、アートマネジメント等の助言を行う職員 20 人日以上	①91.6%（2026 年 1 月現在） ②　平均 5.42 点 ③市町村も含めた人数を確認中（現時点では当劇場のみで 2372 人） ④ （普及-01）25% （普及-02）11.4% （普及-03）43.5% ⑤5 プログラム（助成対象事業） ・CLUB ORIGAMI（7 市町村・団体） ・多文化共生ダンスワークショップ（愛知県） ・劇場職員セミナー（名古屋市事業団） ・POP UP OPERA（東桜エリアマネジメント協議会） ・ダンサー養成事業（島地保武ワークショップ）（名古屋洋舞家協議会） 6 プログラム（助成対象外事業） ・パフォーミングアーツ・セレクション 2025 ・愛知 4 大オーケストラ・フェスティバル 2025 ・第 46 回中部バレエフェスティバル ・愛知県立芸術大学管弦楽団定期演奏会 ・『せかいいちのねこ』関連アウトリーチ ・ダンススコーレ ⑥合計 1,225 人 詳細は以下のとおり

		舞台芸術インターン1年目15人、2 年目 8 人、学生インターン 42 人、お仕事ガイダンス 30 人、劇場職員セミナー1,125 人、レビュー講座 5 人 ⑦53 人日

（※４）・（※５）…R７年度評価補助シートから転記すること。

・評価指標と目標（値）及びその達成度に言及しながら、太枠内に自己評価を記入してください。

自己評価	評価指標①「劇場の平均利用率」および②「利用者満足度調査」については、いずれも目標を上回り、地域の拠点劇場として十分に役割を果たしたと言える。 評価指標③『劇場と子ども 7 万人プロジェクト』については、個人での応募来場者数は 719 名で、小学校低学年から高校生まで幅広い子どもたちの参加があった。学校招待公演では、2519 名、また、パートナー市町村の来場者数は現在確認中である。今回のような『劇場と子ども 7 万人プロジェクト』の取り組みを今後も継続してほしいか」というアンケートに対しては、94%が支持する回答であった。 評価指標④については、（普及-03）の『赤ちゃんとおどろう』については目標値に達したものの、その他のファミリー向け事業は、目標値を達成することができなかった。対象事業（普及-01）『愛知県芸術劇場オープンハウス」および（普及-02）『THE オルガン NIGHT＆DAY2025』では、年 1～2 回の来場者が 50%以上を占めた。一方で、（普及-03）『げきじょうたんけんツアー』およびダンスワークショップ『赤ちゃんと踊ろう』は参加年齢を限定していることから、参加者の多くが新規来場者であったと考えられる。以上より、今後は、新規来場者にこだわらず、リピーターへの訴求も含め、幅広く参加を呼びかけることを検討し、地域ニーズ分析を検討することが必要であると考える。 評価指標⑤については目標を下回ったが、愛知県、公益財団法人名古屋市文化振興事業団はじめ 7 市町村の劇場を管理・運営する団体、劇場が所在するエリアのまちづくり団体、名古屋洋舞家協議会などと連携して事業を実施することができた。なお、助成対象外事業を含めると、民間劇場や大学、地元オーケストラなどのアーティスト団体など合計 11 団体と連携し、地域の文化拠点としての役割をおおむね果たすことはできたと考える。特に、普-08『CLUB ORIGAMI』では、公益財団法人名古屋市文化振興事業団に舞台業務の一部を委託することで、当該団体の人材育成の機会を提供した。県内 7 か所での巡回公演にあたり、入念な確認を行いながら共同して準備をすすめ、地域人材の育成と当該団体との連携強化につながるとともに、制作体制の強化・能力向上を図ることができた。 評価指標⑥および⑦については、いずれも目標を上回った。⑦職員派遣については、中部圏の劇場や市町村にとどまらず、全国公立文化施設協会をはじめとする全国規模で講師・委員の依頼があり、舞台芸術人材の育成の拠点としても十分に機能を果たしているといえる。

（2）自己評価

（※1）…S～D で記入すること。

評価項目④：多様性とアクセシビリティ

評価の観点	・（プログラムの多様さ）プログラムの種類や形態が多様で、幅広い観客や参加者に訴求する。 ・（参画者の多様さ）アーティストやスタッフとして参画する人々の属性（性別、年代、居住地、他）が多様である。 ・（アクセシビリティ）障がいの有無や年齢、性差、国籍、居住地、経済的状況等に関わらず、あらゆる人々と実演芸術をつなぐため、施設の構造・設備上の配慮、プログラム上の創意工夫やサポート、アウトリーチ等が行われている。	
	・自由設定の観点（任意）（※2）	

（※2）…R７年度評価補助シートにて設定している場合は転記すること。

評価指標（※3）	目標（値）（※4）	実績（値）
①鑑賞サポート（託児サービス、ヒアリングループ、字幕タブレット、点字プログラム、リラックスパフォーマンス、舞台手話通訳など）の実施事業数 ②日本人と外国人との交流機会の提供 ③社会的マイノリティを観客・参加者としたプログラムの実施数	①5 事業以上 ②3 事業以上 ③3 事業以上	①5 事業（対象外事業を入れると 6 事業）。詳細は「自己評価」に記載。 ②3 事業。詳細は「自己評価」に記載。 ③4 事業。詳細は「自己評価」に記載。

（※3）・（※4）…R７年度評価補助シートから転記すること。

・評価指標と目標（値）及びその達成度に言及しながら、太枠内に自己評価を記入してください。

自己評価	評価指標①　託児サービス 4 事業、ヒアリングループ 3 事業、字幕（タブレット含む）5 事業、点字プログラム 2 事業、リラックスパフォーマンス 1 事業、手話通訳 1 事業を実施した。これらの取り組みにより、劇場のアクセシビリティ向上に資する工夫を行うことができた。反響を鑑みつつ、今後も継続していく。 評価指標②　普-07 として、公-03『ジャングル・ブック』出演者によるダンスワークショップ及び中学校・高校へのアウトリーチを実施した。普-08『CLUB ORIGAMI』ではイギリス拠点のカンパニーによる公演では、終演時に鑑賞した子どもたちが舞台上に一緒に参加する参加型パフォーマンスを行った。また公演とは別にワークショップも実施した。普-06 として日本語を母語としないネパール人学校「TOKAI BATIKA INTERNATIONAL SCHOOL」へのアウトリーチ事業を行った。以上により、国際色豊かなアーティスト地域住民が文化交流を通して交流する機会を創出できた。 評価指標③については、普-03 において、赤ちゃんがいるため劇場に来場しづらい保護者を対象としたダンスワークショップを実施した。普-06 として、愛知県多文化共生室の協力のもと、日本語を母語としない人も子どもと一緒に楽しめるダンスワークショップ、及びネパール人学校へのアウトリーチを行った。また、精神保健福祉士の資格をもちソーシャルワーカーとしても活動する演劇作家の村社祐太朗をファシリテーターに招き、ケアをテーマとする演劇ワークショップを行った。さらに、普-05「終わらない夜」学校招待公演では、特別支援学校、聾学校、盲学校、定時制高校、インターナショナルスクール、ブラジル人学校からそれぞれ 1 校、フリースクールから 2 校の参加があった。学校行事として参加してもらうことで、障がいの有無や言語的背景、学びの環境の違いを越えて、多様な子どもたちが等しい舞台芸術体験を共有する機会を創出した。

（２）自己評価

（※１）…S～D で記入すること。

評価項目⑤：自由設定（任意）

評価の観点	①　創造性・企画性、②国際性、③地域文化拠点機能、④多様性とアクセシビリティ、⑥運営体制と持続可能性　の項目では成果や課題に言及しきれない事柄について、自己評価を行ってください。（※２）
	・ ・ ・

（※２）…R７年度評価補助シートにて設定している場合は転記すること。

評価指標（※３）	目標（値）（※４）	実績（値）

（※３）・（※４）…R７年度評価補助シートから転記すること。

・評価指標と目標（値）及びその達成度に言及しながら、太枠内に自己評価を記入してください。

自己評価	

（2）自己評価

その他：エピソードやグッドプラクティス事例について

助成対象事業に関連して、心に響くような印象的な出来事や、他館の参考になるような好事例があれば、具体的にご記入ください。
・広報・周知手法の多様化 職員による企画・広報会議を定期的に実施し、職員間で積極的にアイデアを出し合い、小さくてもこれまで実施してこなかった手法を積み重ねることで、販促および周知の強化を図っている。 例えば、公-03 アクラム・カーン『ジャングル・ブック』公演では、フォトスポットを制作し、劇場が入居する愛知芸術文化センターのオープンスペースに事前に設置、当日はロビーに展開した。オープンスペースでの設置期間中には高校生がフォトスポットでポーズを決めて写真撮影を行う様子が見られ、ダンスファンに限らない若年層への周知と興味関心の喚起につながった。 また、愛知芸術文化センターへの通路に、各公演ポスターに加えて、自社媒体（情報誌や SNS）の周知ポスターやパイプオルガンの仕組みを解説するポスターを掲示することで、美術館来館者や駐車場利用者にも訴求力を高め、複合施設ならではの多角的な情報発信につなげた。 ・チケット購入者の分析による普及啓発事業の手応え チケット購入システムを活用した参加者分析の結果、未就学児から小学校低学年を対象とした事業では、参加者の約半数が複数の事業に参加していることが明らかとなった。一度来場の機会を創出できれば、継続的な来館につながり、保護者にとって劇場は子どもに安心して芸術文化を体験させることのできる場所と認識されたことがうかがえる。このような環境形成が、若年層リピーターの形成に寄与していると考えられる。 ・バリアフリー対応における職員の経験値向上と知見の拡大 肢体・視覚・聴覚に障がいのある来場者への対応については、近隣の社会福祉法人名古屋市身体障害者福祉連合会（通称：名身連）から助言を受け、連携体制を構築しており、円滑に実施できている。回数を重ねることで、職員が構えることなく障がい者への対応ができている。 加えて、名身連からの紹介により字幕支援に特化した団体「ボイスケイン」とネットワークが構築され、協力体制が拡大した。さらに、近年は聴覚障がい者支援における AI 技術の活用が進んでいるといった最新の知見が得られ、これらを翌年度事業に反映することで、事業企画および来場者対応の質の向上につなげている。

（2）自己評価

評価項目⑥：運営体制と持続可能性

（※1）・（※2）…R7年度評価補助シートから転記すること。
※太枠内に記入してください

○「実現性」の項目より〈(ア）～（エ)〉

評価の観点	（ア）多様な財源の確保 予算計画が妥当であり、事業収入のほか、各種助成金や寄附金・協賛金等の獲得に努めている。	（イ）広報・営業力 広報計画が充実しており、券売や集客、会員制度等の拡充に努めている。
現状（※1）	R7:助成金4種類、計59,873,000円 賛助会員のべ44会員・50口（3,445千円） ミュージアムショップ収益事業からの繰り入れ	・年間計画を立案の上、毎週広報会議を実施 ・個人会員制度25,581名
目標(値)（※2）	賛助会員口数　45口以上 収益事業（ミュージアムショップ運営）からの繰入金　100万円以上	・個人会員の伸び数　年2,000名以上
実績(値)	賛助会員　50口（3,445,000円） 収益事業　3,000,000円（予定） 協賛金収入　1,000,000円	・個人会員の伸び数1,976人（会員数27,557名）
団体の自己評価	目標を達成し、改善されたといえる。 今後も更に拡大を目指す。	目標値には僅かに届かなかった。この結果を踏まえ、拡大を目指して改善を図る。

評価の観点	（ウ）他館連携 他の劇場･音楽堂等との事業連携や協力･支援を通じて、効果的で効率的な事業運営を行っている。	（エ）設置者 円滑な事業の継続のため設置者と適切に意思疎通を図っており、設置者による人材や財源の確保等が期待できる。
現状（※1）	国内の連携団体数49、うち県内市町村との連携団体数34 各種ネットワークへの参加4団体（全公文、愛公文、劇音協、公技連） ホール職員向けの研修2事業（劇場職員セミナー、愛公文セミナー）	県からの派遣職員11名が事業団に在籍、県OBの役員2名 県との調整会議を月1回開催
目標(値)（※2）	他団体との連携事業数10以上	改善不要
実績(値)	連携事業数18（連携団体数58）	申請時の体制を維持し、現状において適切に機能している。今後も当該体制の継続的な確保に努める。
団体の自己評価	目標を達成し、改善されたといえる。 今後も更に拡大を目指す。	現状適切に実施できている。今後も安定した運営ができるように努めていく。

○「持続可能性に関するチェックシート」より〈(オ）～（セ)〉

評価の観点	（オ）芸術監督 芸術監督等、劇場運営の芸術面を統括する人材が配置されている。	（カ）長期的経営 長期的視点に立ち、劇場運営を統括する、経営実務者長期的視点に立ち、劇場運営を統括する、経営実務者が配置されていが配置されている。
現状（※1）	芸術監督１名と支配人１名を配置	理事に専門性の高い有識者を配置（市事業団理事長、文化政策研究者、大学経営者、コンサル等）
目標(値)（※2）	改善不要	改善不要
実績(値)	申請時の体制を維持し、現状において適切に機能している。今後も当該体制の継続的な確保に努める。	令和８年に理事改選を控えているが、同様の水準の人選を行う。
団体の自己評価	芸術面を統括する人材は適切に配置されており、適切な人材配置を継続する。	劇場運営を統括する、経営実務者は適切に配置されており、現状改善を要する点はなく、引き続き適切な人材の選定に努める。

評価の観点	（キ）専門人材の確保 今日的な劇場運営に必要な職能や専門性を踏まえ、運営体制が整備されている。あるいは専門人材の確保や育成に努めている。	（ク）職制の整理 芸術監督、館長、支配人、プロデューサー、その他管理職の職位及び職能、一般職員の職務内容等が専門性を基に整理され、役割分担されている。
現状（※1）	①劇場運営、②舞台技術、③企画制作④経理・施設、⑤総務の５つのグループを運営。①OFF-JT に積極的で多くの職員が研修に参加している。	職位及び職能については、その立場で必要とされる専門性等を踏まえ、組織規程により整理されている。加えて（キ）①～⑤のグループ毎に、専門性や実績を踏まえ、各 G 役割分担表を作成している。
目標(値)（※2）	改善不要	改善不要
実績(値)	申請時の体制を維持し、現状において適切に機能している。今後も当該体制の継続的な確保に努める。	申請時の体制を維持し、現状において適切に機能している。今後も当該体制の継続的な確保に努める。
団体の自己評価	専門性を踏まえた運営体制は整備されており、今後も適切な運営体制に努める。	専門性を踏まえた役割分担はされており、今後も専門性を活かした体制維持に努める。

評価の観点	（ケ）世代間バランス 年齢バランスを考慮した人材確保を行っている（若年層の雇用に努めている）。	（コ）ジェンダーバランス 女性管理職比率が 30%以上である。あるいは、女性の管理職やリーダー職への登用に努めている。
現状（※1）	2025.4.1 現在の年代構成 20 代：7 人 30 代：4 人 40 代：15 人 50 代：16 人 60 代：3 人（＋常勤役員 3 人） ※スタッフ（短）は含む、アルバイトは除く ※4/1 時点で欠員の方は除く	女性管理職比率：20.0% 女性管理職の登用に努めているものの、施設設置者の意向も踏まえた人事なのでコントロールが難しい
目標(値)（※2）	改善不要	改善不要
実績(値)	2026.4.1 現在の年代構成 20 代：7 人 30 代：5 人 40 代：14 人 50 代：18 人 60 代：3 人（＋常勤役員 3 人） ※スタッフ（短）は含む、アルバイトは除く ※4/1 時点で欠員の方は除く	女性管理職比率：20.0%
団体の自己評価	世代間バランスに配慮した人材確保は概ね適切に行われており、今後も適切な人材確保に努める。	課題意識を施設設置者である愛知県と共有し、女性登用率の向上を目指す。

評価の観点	（サ）ワークライフ・バランス 仕事と育児・介護等の両立支援制度を整備し、推進している。	（シ）コンプライアンス順守 情報セキュリティをはじめ、各種コンプライアンスの順守規定を策定し、必要な研修を行っている。
現状（※1）	育児休業・介護休暇のいずれも整備しており、職員に推進している。2024 年度の育児休業・介護休暇の取得日数実績は以下のとおり。 育児休業：実績なし 介護休暇：実績なし	各種コンプライアンスの規定は、設置者である愛知県の規定に準拠し策定している。 また、社員研修を年 2 回実施している。
目標(値)（※2）	改善不要	改善不要
実績(値)	R7 年度の育児休業・介護休暇・時差出勤の取得日数実績は以下のとおり。 育児休業：実績なし 介護休暇：実績なし 時差出勤：4 件	各種コンプライアンスの規定は、設置者である愛知県の規定に準拠し策定している。
団体の自己評価	現時点で利用実績は多くはないが、ワークライフ・バランス制度は整備されている。今後も職員が必要な際に活用できるよう環境維持に努める。	愛知県の規定に基づき、必要な研修を行っている。今後も適切な運営に努める。

評価の観点	（ス）ハラスメント防止対策 職場内及び創作現場におけるパワー・ハラスメント、セクシュアル・ハラスメント等防止のための指針等を策定・周知し、必要な研修を行っている。	（セ）適正な契約事務 アーティストやスタッフと適正な契約書を交わしている。
現状（※1）	社員向けの研修の他、県内外のホール職員向けの研修を実施。 劇場での創作活動においては、関係者全員にハラスメント講座を実施した。	大規模な公演では契約書・請書を交わす他、小規模な講演でも依頼文を出すなどしている。
目標(値)（※2）	改善不要	改善不要
実績(値)	社員向けの研修の他、県内外のホール職員向けの研修を実施。 劇場での創作活動においては、関係者全員にハラスメント講座を実施した。	契約及び経理事務については、税理士法人に毎月確認（主として税務の観点）をしてもらい、適切な契約事務を行っている。
団体の自己評価	職員向けの研修に加え、創作現場においても適切な講座を実施している。今後も継続して研修を行い、意識の向上、適切な運営に努める。	規定に基づき必要な手続きを適切に行っている。また、必要に応じて経理事務の相談・確認も行い適切な処理に努めており、今後も継続して適切な事務執行を行う。

（3）総評

※太枠内に記入してください。

団体の自己評価
・公演事業の「創造性・企画性」については、各公演とも概ね目標を上回り、観客および専門家の双方から高い評価を得るなど、特色ある質の高い公演を実施することができた。 ・入場者数・有料入場者数は各公演とも目標値の 87%から 100%を得たが、入場率については一部の公演で目標に至らなかった。この要因としては、創造性・企画性を重視した結果、当劇場の大ホールやコンサートホールにおいて、作品規模と客席規模との間に一定の乖離が生じたためと考える。 ・公立劇場の地域の中核拠点劇場としての役割を踏まえた公演事業としては、観客に質の高い舞台芸術を届ける観点から、入場率のみならず、入場者数（実数）を重視していく必要があると考えている。今後は、見切れ席の扱いを含め、有効客席数の設定をより適切に行いながら、引き続き創造性・企画性の高い公演事業を継続していく。 ・チケット価格については概ね適切に設定されていると考えているため、今後も広報のさらなる強化により来場機会の拡大を図る。 ・人材養成事業および普及啓発事業のいずれにおいても、地域のニーズや状況に応じた特色ある取組を展開できた。 ・一方で、人材養成事業のうちダンサー養成事業については、当初計画から実施回数が大きく減少した。主な要因として、講師を予定していた来日カンパニーやアーティストの都合により、ワークショップ実施の見通しが来日ギリギリまで立ちにくい状況が生じたことが挙げられる。公演上演の交渉を優先しつつ、ワークショップも粘り強く調整を行ったものの、結果として実施機会の確保には至らなかった。今後は、公演に依存しない形でのダンサー養成事業の実施や、公演連動型ワークショップについては代替講師への切替時期をあらかじめ設定するなど、実施体制の柔軟性と確実性を高めることで、事業目的の達成を図る。 ・国際性、地域文化拠点機能、多様性とアクセシビリティ、運営体制と持続可能性についても、バランスよく実施し、この助成金によって地域の中核劇場として大きな役割を果たすことができた。 ・普及啓発事業では、一部事業において当初計画から実施時期や講師の変更が生じたものの、規模を調整しつつ実施回数を確保するなど、柔軟な対応により着実に事業を展開することができた。具体的には、0 歳から入場可能な公演の実施、小学生から 18 歳までを対象とした無料鑑賞機会の提供、愛知県多文化共生室との連携による日本語を母語としない方々へのアウトリーチなど、年齢や障害、国籍等にかかわらず、多様な人々が安心して芸術に触れることができる機会の創出に取り組んだ。 以上により、全体として、当劇場のミッション・ビジョンに基づき、地域の中核拠点劇場として十分な役割を果たすことができたと考える。

備考